

遠野の未来・可能性に挑戦

全国に先駆け始まった同事業の初期メンバーが3年の任期を終えました。遠野に移り住み、地域の資源を生かした起業に挑戦した彼らに

①取り組みの内容と成果②今後の活動—を聞きました。



5



3



1



6



4



2

1_遠野の素材を生かしたクラフトビールや料理が楽しめる「遠野醸造TAPROOM」をオープン 2_富川さんが立ち上げた「to know」が展開する遠野の歴史文化を学ぶ活動 3_どぶろく造りの修行をする八重樫さん(左) 4_市民と試行錯誤を重ねながら取り組んだ小友ようかん復活への挑戦 5_小関さんが開発した家の中に設置する家「アセンブルーム」 6_地元高校と連携した地域探究活動を展開する室井さん

1_産直ガイドやホップシロップなど遠野のさまざまなデザインに関わることができました。「小友ようかん復活を目指す産直ともちゃん」の女性たちと試作やパッケージ作り挑戦。昨年春には試験販売を始め、本格的な製造・販売に向けて準備を進めています。



田村淳一

①ホップ収穫祭実行委員長を務めながら、「ホップの里からビールの里へ」のビジョン具現化に向け挑戦。昨年、ビールの里をプロデュースする組織「ホップの里」を創業。遠野のホップとビールを生かしたまちづくり推進に仲間と取り組みました。



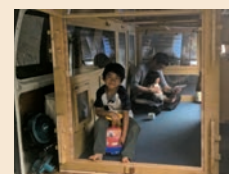
太田睦



袴田大輔

①ビールを通して地域資源をつなぎ、輝かせることで産業振興を目指しました。着任後、醸造所を設立。昨年5月には、醸造所併設の「遠野醸造TAPROOM」を中央通りにオープン。遠野の素材を生かしたクラフトビールを造り、楽しんでもらえる場所を造ることができました。

ビールの里プロジェクト



小関直

①180万円で5、6年住める家作り挑戦しました。パン1台で旅行や宿泊ができる家「アセンブルーム」を開発し販売を開始。また、寒い冬に賃貸住宅でも改修することなく快適に過ごせる方法を考え、家の中に設置する家「アセンブルーム」を作りました。

低コスト住宅開発プロジェクト



八重樫海人

②民宿とおのスタッフとしてどぶろく醸造に携わることになりました。米農家さんと協力してどぶろく造り、販売にも挑戦中。新しいビジネスモデルを実現したいです。

発酵/どぶろく蔵人プロジェクト



橋本亮子

②デザインは問題解決の手段を理念に、今後も小友ようかんの運営や「遠野の魅力」を伝える商品づくりに継続して取り組んでいきたいです。

デザインプロジェクト



富川岳

①「磨けば光る」ではなく、既に光っている遠野の地域資源。いいものを知ってもらう仕組みや伝え方が重要です。移住後は、「富川屋」の「to know」を立ち上げ、遠野の人・企業・文化など、資源の魅力を知り、好きになってもらえるような企画・デザイン・情報発信を展開しました。

地域の魅力発信プロジェクト

プロジェクトの詳細はフェイスブックへ！

公式アカウント
「Next Commons Lab 遠野」

プロジェクトの概要やメンバーの活動状況、イベント情報などをフェイスブックで紹介しています。



室井舞花

①この事業の各プロジェクトに関わり、メンバー同士や市内の人たちをつなげる役割を担いました。また、誰かの「挑戦」を応援できるような場所づくりに力を注ぎました。

地域コーディネーター

遠野で新たな可能性を創り、形にした8人の隊員たちは、次のステージでチャレンジを続けていきます。遠野をもっと元気に、地域の魅力をより輝かせようと、その歩みに力を込めています。

②遠野には面白いアイデアや素敵な知恵と技術を持っている人がたくさんいます。遠野に興味を持ち、訪れる人も多くいます。そんな遠野で、個人の「チャレンジしたい」気持ちを大切に、応援できるような活動を続けていきたいです。

全

国に先駆け、平成28年8月に始まった「遠野ローカルベンチャー事業」。国の「地域おこし協力隊制度」を活用した取り組みです。事業は、㈱ネクストコモンズ(林篤志代表)と本市が連携し、都市部から人材を採用。メンバーは地域おこし協力隊として遠野に移住し、3年の任期で地域のひとたちと一緒に力を合わせ、地域資源を生かした起業に挑戦しました。